

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.92
2020.9

小さなハンター

食事中も静かです…

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomoroikimonotachi amiharinomori

ガガンボの仲間を捕食中の“コハナグモ”

「この残暑は一体いつまで続くのだろう…？」終わらないかのように思えた暑さもようやく和らぎ始めたある日、アザミの花にいたコハナグモに出会いました。この時期はアザミの見分け方が悩ましく、葉の形状や総苞の反り返りなどを確かめていたところでした。「あれ？」よく見るコハナグモがガガンボの仲間を捕食中。それまで全然気づかずに花を引き寄せたり離したりとだいぶ揺り動かしましたが、落ちることなく食事を続けていたようです。今度はコハナグモを観察することに。以前、アキアカネが何かを食べている時「パチン、パチン」と鋭い爪を切るような音を耳にしたことはありますが、クモは相手を咬み牙から毒液を注入しタンパク質を溶かして消化するためか耳をすましてみるも音は聞こえず…。アザミの花の周りをゆらゆらと飛んでいたガガンボの姿を思い出し「捕まってしまったか…」という気の毒さと、クモには「食にありつけたね」と安堵する気持ちが交差しました。静かなように見える森の中でも至る所で“食う、食われる”が繰り返されバランスが保たれていることを垣間見られた出会いとなりました。

What is “Kohanagumo”?

「花の上にいる小さなクモ」

カニグモ科

体長：♀4～8mm

♂3～4mm

分布：日本全土

平地から山地まで広く生息している。網を張らずに樹木や草の葉、花の上などに潜み飛来する昆虫を捕食する。腹部上面に2～3対の褐色の斑紋がある。

(同定協力：岩手県立博物館 渡辺 修二氏)

(参考図書：「日本のクモ」)

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomori

「あつあれなんだろう。あんなところにまっ白な家ができた」
 「家じゃないんだ」
 「昨日はなかったぞ」
 (中略)
 「あれはきのこというものだって。何でもないって。あんなもの地図に入れたり消したりしていたら、陸地測量部など百あつても足りないって」
 宮沢賢治
 『ありとぎのい』より

倒木を読む

第3話

切っても切れない木とキノコ



左上と右下：サルノコシカケの仲間 右上：イタチタケ
 左下：ツリガネタケ 同定協力：岩手山地区PV 原由美氏

園路を歩いていて、一見枯れたようには見えない木にもサルノコシカケがついている事がある。触ってみると、木ばかりではなくキノコ本体も固い。木の中では一体何が起きているのだろうか？

木はセルロース・ヘミセルロース・リグニンといった非常に腐りにくい成分で構成されている。それを栄養素にして消化・分解できるのが「木材腐朽菌」と呼ばれる菌類だ。木材の腐朽は樹皮が傷付いたところにカビの胞子がついて繁殖し、次に木材腐朽菌が木材基質を分解していく。朽ちた部分は昆虫等が食べ物として利用し、最終的にはバクテリアによって無機物となり土へ帰る。生きている木も枝や心材部に菌が入り、朽ち木になるケースもあるそうだ。立ち木についたキノコは、木が枯れていく可能性を示すサインであり、倒木を予感させる前兆でもある。



Q. マツタケのように、木の根から栄養をもらっているキノコについて教えてください。

A. 植物の根から光合成で生成された糖分を得ているキノコは「菌根菌」だ。土壌中の糸状菌が植物の根について栄養をもらい、植物が水分やミネラルを吸収するのを助ける共生関係を築いていて、菌根菌がない土壌では植物の生育も悪くなるそうだよ。このタイプのキノコは栽培が難しいから、マツタケは希少なんだね。キノコはほかにも「腐生菌」や「寄生菌」などの種類があって、それぞれ森が循環していくのにかかせない役割を果たしているんだ。



ヤマイグチ



アミハリ・バース Vol. 35

エゾムシクイ

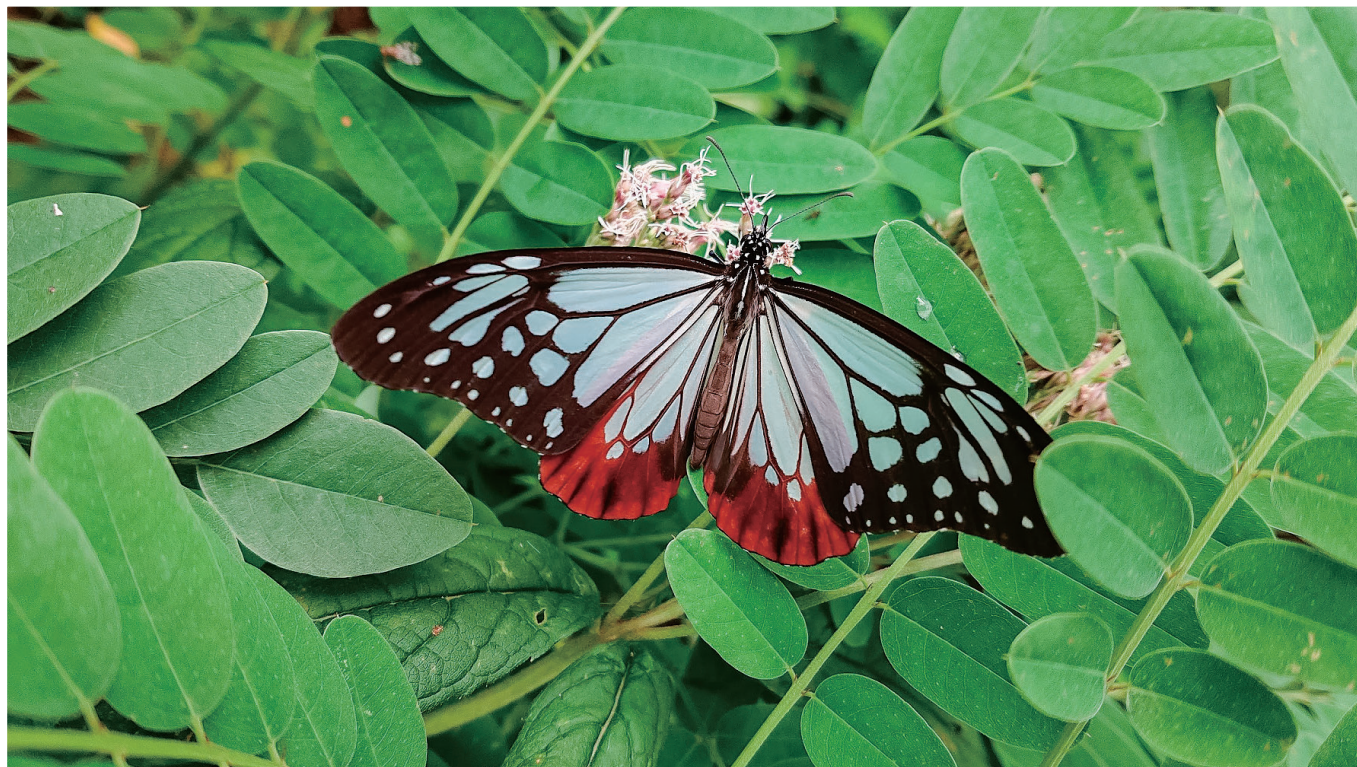
科名：ウグイス科
 全長：12cm
 生態：夏鳥
 分布：北海道、
 本州中部以北、
 四国

鳴き声

ヒーターキーヒー、
 ツーチーツーチー、
 ピッ ピッ



「日月～、日月～」と聞こえる鳴き声はしても、なかなかその姿を探すのは難しい鳥です。ウッドテラスにエゾムシクイが落ちていたのは、残暑の厳しい8月下旬の事でした。状況から、青空が映った窓にぶつかってしまったのでしょうか。はるか遠く東南アジアまで渡り、来春また日本に戻ってくる未来もあったはずですが、それを実現させるのは非常に難しい確率に思えます。ウグイスに比べより標高の高い山岳地帯を好み、天敵に襲われにくい崖の窪み等にコケを埋め込むように巣を作るそうです。体の色も保護色で全体的に控えめな印象ですが、それがこれまで幾月も種を絶やさずに生き抜いてきた彼らの武器なのでしょう。



今年度より三ッ石山区域の自然公園保護管理員になりました川口です。滝ノ上温泉登山口と奥産道・大松倉ゲート駐車場から三ッ石山荘、及び三ッ石山荘から東は大松倉山山頂、西は小畚山山頂までが担当です。今年、奥産道でバツタリ、クマに遭ってからは（人生最接近）、右手に草刈鎌、左手にピストル（おもちゃです）のスタイルでパトロールしております。

お盆過ぎから連日暑く、奥産道を起点に三ッ石山頂までで力尽きています。元々、奥産道区間はあまり好きではなく、管理員になるまでは4回程しか歩いていませんでした。往復4km弱の舗装路を歩く、真夏は耐えられません。しかし、管理員になって6月から連日歩いてみると、お花が豊かなのに気づかされました。そして8月末…アサギマダラの大乱舞に出会いました。その日はのべ50頭以上。しかもみんな元気です。近寄るとすぐ飛び立って上昇してしまい、なかなかアップで撮影出来ません。ホットプレートと化している舗装路に寝っ転がって撮影に没頭しようかと思いましたがやめました。「この環境は大事にしたい」と改めて感じております。

いつ・何処に・何のお花が咲くのか勉強中で、刈り払いが中途半端でご迷惑をおかけしております。少しずつ自分がどんな登山道にしたいのかを形にしていきたいと考えておりますので、長い目で見ていただければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

岩手県自然公園保護管理員 川口 卓也 氏

環境省 盛岡管理官事務所からのお知らせ

◆◆ ビジターセンター改修工事 進捗レポートⅡ ◆◆

8月より事務所及びインフォメーションが西側の管理棟に移動しました。展示は現在作成中ですが、インフォメーションでは周辺の山岳情報や東北管内ビジターセンター等の紹介、近隣市町村の様々なイベント情報などを提供しています。

新しくなった管理棟では、天井が高く広々とした館内でゆっくり過ごしていただけるよう机や椅子も設置しています。人気のキッズコーナーは大人も楽しめ、書斎風コーナーは読書や図鑑を楽しむのに最適です。雫石盆地や小高倉山をはじめ志和山なども見渡せるテラスデッキも多くの方にご利用いただいています。これからの紅葉の美しい季節、是非、お立ち寄り下さい！



（テラスデッキからの眺めもおすすめ）

（新しくなったインフォメーション）

自然観察会報告

8月9日 -国立公園で楽しむ親子の自然体験- 「虫となかよく夏休み！ だて先生の昆虫観察・クラフト体験」



虫と友達になって、虫のいる自然全体と友達になる。そんなふうに広がっていくといいですね。講師より

雨の日、昆虫はどこにいるかな？伊達先生に見つけた昆虫や自然について解説していただきました。

また、森の素材でかわいらしい昆虫や動物などを作りました。

総勢 13名参加



チョウが花に止まっているところを作りました。

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

9月6日 -国立公園で楽しむ親子の自然体験- 「おかわりしたくなる！炭火炊飯体験」



上手く炊けたかな？



お米を研ぐ前にお米が水を吸う音に耳を傾けました。「初めて聞いた！」の声。森のお話・炭のお話・新作りの見学・刃物の扱い方のお話の後は自分達で焚きつけ材探し。そしていよいよ炭火炊飯開始！火をつけるのは子ども達。炭火が安定するまでうちわであおぎました。土鍋を七輪にのせてしばらくすると今度はお米の炊ける音が。やがていい香りがしてきて、つやつやのご飯が炊けました。炭火で炊いたご飯は美味しかったです！
総勢 19名参加

インフォメーション

ビジターセンターの自然ふれあい行事は初めてのかたでもお気軽にご参加いただけます♪
お気軽にお問い合わせ下さい！

10月10日(土)

アートな秋・鞍掛山麓スケッチ入門

講師：広野 孝男 氏(裏岩手山岳会)

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合
定員：10名 参加料：大人500円 小学生300円

11月3日(火・祝) - 森のクラフト体験 -
「ミニミニツリーを作ろう！」

9:30~11:30 網張ビジターセンター集合
定員：10名 参加料：1人500円(材料費込)

☆新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になる場合もございます。最新の開催情報を事前にご確認下さい。

8月2日 岩手県市町村職員健康福利機構 「親子で犬倉山登山に挑戦！」



山頂からみんなで「やっほー！」

岩手県内の各市町村職員の家族 24名が参加し犬倉山に登りました。「今日は特別に雲の中にご案内します」と講師より。リフトに乗っている時も登山道も霧の中でしたが、山頂に到着すると一瞬雲が切れ、素晴らしい眺めを楽しむことができました。下りはちょっと遠回り。ぬかるみに足をとられることもありましたが、全員無事に下山できました。

参加者より「達成感がありました」「親子で楽しめました」

「網張の森で撮影された昆虫写真展」

夏休み特別企画として、ビジターセンターの北側通路と館内で、人気投票を兼ねた参加型の写真展を行いました。昆虫の繊細で愛らしい姿を多くの方に楽しんで頂きました。人気No.1はダントツでヤブキリでした。ご参加下さいました皆様ありがとうございました！



投票ありがとうございます！



ようこそ！ビジターさん

夏休みを利用してビジターセンターに遊びに来てくれた小林悠真君。妹さんと仲良く折り紙をしたり、ドングリの遊具で遊んで楽しく過ごしました。図鑑を見ながら描いた昆虫の絵がとても上手で、悠真君に了解をもらい館内に展示させて頂いています。昆虫についてとても詳しい悠真君。また皆さんで網張に遊びに来て来てね！



折り紙で作ったカエルで競争！



モモンガのつぶやき

ビジターセンターに居住する小さな隣人はドングリに目がありません。それを逆手にとって、ペットボトル等を使ったトラップを制作し仕掛けてみました。失敗の度に改良を重ね、ついに対面に成功！

ヒメネズミは生きた心地がしなかったのか、ほとんど瞬きをしていませんでした。その後森へ帰したけど、元気にしてるといいなあ…。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月1, 251人 ◆ 8月1, 842人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 13.4℃ ◆ 8月 17.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時